

今回は、当館が所蔵する987点の瑛九作品より、オノマトペの視点から選んだ作品を展示しています。

「オノマトペ」とは、擬音語や擬態語のことです。擬音語は「ワンワン」など動物の鳴き声や、「ビュービュー」といった自然界の音のように実際に音として聞こえるものを言葉で表したもの、擬態語は「キョロキョロ」や「ウロウロ」「ドキドキ」といった動きや感情、雰囲気や様子を音に例えて表したものです。作品の特徴や見て感じたことを、オノマトペを使って表すことは、印象を言葉に凝縮することであり、自分の感覚を可視化することにつながります。

技法やモチーフなどの一般的な分類ではなく、オノマトペを通じて作品を見てみると、題名や色づかいなどからイメージするものとは違った新しい魅力を発見できるかも知れません。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	瑛九	1911～1960	空の目	1957（昭和32）	72.7×60.9	油彩
2	瑛九	1911～1960	よろこび	1954（昭和29）	40.0×27.8	フォト・デッサン
3	瑛九	1911～1960	巢のまわり	1956（昭和31）	33.1×48.7	リトグラフ
4	瑛九	1911～1960	赤い風船	1957（昭和32）	23.3×15.8	リトグラフ
5	瑛九	1911～1960	いじわる	1954（昭和29）	36.1×27.2	エッチング
6	瑛九	1911～1960	3人	1935（昭和10）頃	21.4×15.2	素描
7	瑛九	1911～1960	海岸	1955（昭和30）	11.6×9.0	エッチング，アクワティント
8	瑛九	1911～1960	作品	不明	25.2×30.4	フォト・デッサン
9	瑛九	1911～1960	でいすい（よいどれ心理）	1937（昭和12）	37.9×45.8	油彩
10	瑛九	1911～1960	黄色のかげ	1959（昭和34）	37.2×44.8	油彩
11	瑛九	1911～1960	ともしび	1957（昭和32）	53.5×40.8	リトグラフ
12	瑛九	1911～1960	水の面	1957（昭和32）	45.4×38.0	エアブラシ，油彩
13	瑛九	1911～1960	みづうみ	1957（昭和32）	91.3×116.3	油彩
14	瑛九	1911～1960	『瑛九デッサン集』	1946（昭和21）	17.4×24.4	水彩
15	瑛九	1911～1960	ちりばめる	1957（昭和32）	36.1×21.4	リトグラフ
16	瑛九	1911～1960	飛びちる花びら	1958（昭和33）	80.3×116.3	油彩
17	瑛九	1911～1960	月	1957（昭和32）	162.2×130.5	油彩，エアブラシ
18	瑛九	1911～1960	夜の道	1954（昭和29）	12.0×12.0	アクワティント
19	瑛九	1911～1960	作品	1952（昭和27）	25.3×20.2	フォト・デッサン
20	瑛九	1911～1960	ダンス	1953（昭和28）	29.3×23.2	フォト・デッサン

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
21	瑛九	1911～1960	作品(A)	1955-56（昭和30-31）	33.3×22.4	素描
22	瑛九	1911～1960	題不明	1953（昭和28）	40.0×31.3	素描
23	瑛九	1911～1960	題不明	不明	48.5×32.0	素描（吹付）
24	瑛九	1911～1960	マスク	1954（昭和29）	40.1×27.6	フォト・デッサン
25	瑛九	1911～1960	フォト・デッサン集『眠りの理由』より	1936（昭和11）	26.9×21.9	フォト・デッサン
26	瑛九	1911～1960	過去	1953（昭和28）	36.1×26.9	エッチング
27	瑛九	1911～1960	ひまわり	1956（昭和31）	39.0×26.0	リトグラフ
28	瑛九	1911～1960	風が吹きはじめる	1957（昭和32）	39.7×52.8	リトグラフ
29	瑛九	1911～1960	海底	1957（昭和32）	36.5×52.5	リトグラフ